

爆から50余年が経過し、生存者たちの高齢化がすすむ中で、まちの記憶をつなぎとめたい、というという住民たちの強い思いからプロジェクトは始まった。

取り組まれたのは、コンピューターグラフィックス(CG)の技術を活用して、映像としてまちを再生する試みである。住民によって語られる猿楽町には、明らかに、人、家、まち、出来事の関係性の中に豊かさがあった。商いをベースとした暮らし、従業員もともに暮らす大家族、近所の大人たちに叱られながらも伸び伸びと遊びまわる子どもたち、開放的な人のつながり、季節とともに移ろう暮らしの風景、等々。かつては、どこの地域にもあったと思われる人と環境との関係の内にある豊かさが、語られる言葉の中に溢れていた。

このプロジェクトを通して、まちの記憶を再生することの重要性が認識できた。まちの記憶の多くは、特定の時間的・空間的文脈の中で位置づけられた出来事記憶、エピソード記憶であった。このような記憶を繋いでいくことは、さらに次世代の人と環境の固有の結びつきを生んでいく。これからのまちづくりにおいて、「記憶」は重要なキーワードとなるのではないだろうか。

第2回クラブ協議会



2009年10月11日
地区大会
於：周南市総合スポーツセンター



— 本年度会長方針 —
「参加する悦びを!
行動する悦びを!」



広島廿日市ロータリークラブ会報

例会日／毎週月曜日 12:30～13:30

例会場／広島サンプラザ TEL(082)278-5000

会長／渡邊 英晶 幹事／高尾 昌二

事務所／〒738-0015 廿日市市本町5番1号 廿日市市商工保健会館4F
TEL(0829)31-5490 FAX(0829)31-5491 E-Mail / office20@h-hrc.com
URL http://www.h-hrc.com/

第627回 2009年10月19日

於：広島サンプラザ

会長時間

会長挨拶



会長
渡邊 英晶 会員

幹事報告

次回例会

10月26日の例会はガバナー補佐訪問のため統一ネクタイをお願いします。

ネクタイの予備が事務局にありますので必要な方はお申し出ください。

10:40よりクラブ協議会がありますのでご出席をお願いいたします。

米山奨学金延長申請について

崔さんの米山奨学金の延長申請についてはアンケートに基づき、会長、副会長、幹事で検討の結果、推薦することを決定いたしました。

15周年記念式典について

23日（金）18:30より純薬（株）1階会議室で開催いたします。

関係の会員の方はご参集ください。

スマイルボックス

山根 達則会員	川崎 勉会員
渡邊 英晶会員	永井 勝康会員
森井 紀夫会員	松野 正信会員
有田 晴好会員	有田 伸治会員
高尾 昌二会員	吉永 孝正会員
澤井 誠会員	久保田幸恵会員

卓話

患者の増え続ける肺の病気と闘う
呼吸器内科医の仕事とは

広島大学大学院 医歯薬学総合研究科
分子内科学（第二内科）
服部 登様



今から50 - 50年前までは、肺結核が最も重要な疾患であり、内科医というのはほとんどが結核を診る呼吸器内科医であった。その後、結核患者の減少と、国立療養所が各地に存在していることを理由に呼吸器内科が新設大学を開設されなかったことなどから、一気に呼吸器内科医は減少していった。この影響もあり、お隣の山口や島根などでは、呼吸器疾患をしっかり診られる医師が全県で10人もいないようなお寒い状況になっている。ただ、広島大学医学部には、60年前の創立以来呼吸器内科が存在し、優秀な呼吸器内科医を輩出してきてはいるのであるが、昨今の呼吸器疾患患者の増加とともに、広島においても呼吸器内科医が相対的に不足し

ている。

全国的にも、内科の代表的な3分野である呼吸器、循環器、消化器の患者数では、呼吸器が最も多くなったのであるが、その専門医の数で言えば、呼吸器は、循環器の3分の1、消化器の4分の1にとどまっている。

医師数不足が否めない呼吸器内科であるが、どのような病気を扱っているのであろうか。代表的な疾患を挙げれば、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺癌や中皮腫の悪性腫瘍、肺炎や肺結核などの呼吸器感染症、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群などなどで、非常に多岐に渡る疾患群を診ていることがわかる。そして、人口の高齢化や高い喫煙率も関係しているのであろうが、これらの疾患はすべて患者数が増加している。この点を考えれば、呼吸器内科医のニーズはますます高まっているといえよう。

患者数が増加しているにもかかわらず、肺の病気についてはほとんど聞いたこともないという方も数多く見受けられる。私自身、第一線で働く呼吸器内科医であり、本日は肺の病気について皆様のご理解を少しでも深めていただければと考え、これらの病気の概略について説明し、加えて最近世間を騒がせている新型インフルエンザについても少しだけお話しさせていただく。



第628回 2009年10月26日 於：広島サンプラザ

会長時間

会長挨拶



会長
渡邊 英晶 会員

みなさんこんにちは。10月も最後の例会です。先日は地区大会も無事終了しました。地区大会にご出席いただきましたみなさん御苦労さまでした。私は青木会員と共に前日より参加しました。今回の地区大会には、パネル展で広島廿日市RCの活動を報告させていただきました。例会場の入口に立てかけてありますのでご覧ください。

本日は、会長時間を利用して京セラの会社の話をします。

この会社の経営哲学はロータリー精神にも通じるところがあります。

御存じのように創業者、稻盛和夫さんは、京セラだけでなくKDDIの創業者であります。

京セラは、1959年、稻盛和夫が27歳のとき、資金も信用も実績もない7人の小さな町工場（京都セラミック）から出発しました。頼れるもの自分達の技術と、信じあえる仲間だけでした。

経営に於いてみんなの意見が衝突し、悩みもがき苦しみました。あわや倒産の危機の時、彼は、従業員に一町工場であった会社を「日本一の企業にする」と唐突もない事を提案するのです。

高い理想を持つ。実行できそうにない目標を持つ。

そのつど何が正しいかという原点に立ち返つてものごとを考え、その原則に従って行動し、従業員に自信とプライドを植え付けました。日々

の集積は、いつの間にか信じられないような成果をもたらしてくれたそうです。集団が機能し、成果を生み出すためには、そのめざすべき方向が明確であり、その方向に集団を構成する全員の方向を合わせる必要があります。

企業であれば、根幹となる考え方、あるいは哲学が存在しなくてはいけません。それは、人として生きる上での基本的な考え方、「人間として正しいことを正しいままに追求する」人の心はうつろいやすく変わりやすいものといわれますが、また同時にこれほど強固なものはありません。その強い心のつながりをベースにしてきた経営、ここに京セラの原点があります。

会社の発展のために一人ひとりが精一杯努力する、経営者も命をかけてみんなの信頼にこたえる、働く仲間のそのような心を信じ、私利私欲のためではない、社員のみんなが本当にこの会社で働いてよかったと思う、すばらしい会社でありたいと考えてやる。

話題は変わりますが、先日の地区大会で、パストガバナーさんがとてもいいことを述べられました。

手の中に小鳥がいる。あなたに問い合わせましょう。生きているか死んでいるか。

生きていると答えると手をにぎりしめる。そうすると小鳥は死んでしまう。死んでいると答えるとそのまま手をひろげて小鳥を羽ばたかせる。

じゃあ答えは？

答えはあなたの手ににぎられている。すなわち生かすも殺すもあなたの手が答えをにぎっている。まさにこれは、今年度のテーマであります。

ロータリーの未来はあなたの手の中に。

幹事報告

クラブ協議会

ご案内しておりますように本日例会終了後、3階「末広の間」におきまして、クラブ協議会を開催いたします。会員全員のご出席をよろしくお願いいたします。

RI2710地区グループ7 ロータリー財団研修についてについて

10月31日（土）14:00～16:00 ANAクラウンプラザホテル4Fカメリアにおいて研修会が有ります。出席される会員さんはよろしくお願いいたします。

スマイルボックス

山根 達則会員

永井 勝康会員

有田 伸二会員

川崎 尚会員

青木 秀行会員

イーグル会参加者

山根、上杉、松野、高尾、渡邊、下向、河内、澤本、太田会員

卓話

まちの記憶を復元する

広島工業大学工学部建築工学科

福田 由美子 様



私たちは、日々の営みの中で多様な物や人と関わっている。そして、その関わりのうちに楽しみや喜びを見いだすとともに、時には困難なことに遭遇しながらも、その生活空間に独自の価値や意味を重ねていっている。

多様な関わりの蓄積として記憶された、愛すべきまちが突然失われたら、どう感じるであろうか。広島は、人類史上初めて投下された原子爆弾により、一瞬にして壊滅したまちである。その瞬間、人々は、家族を失い、友達を失い、家を失い、まちを失った。そして1997年、爆心のまち猿楽町の元住民たちが、自らの記憶を頼りに、失われたまちを取り戻す取り組みを始めた。猿楽町は、当時の広島県産業奨励館から、東へ350m程延びる通りを挟む街区である。被